

# 水害対策でダム重要性指摘

## 党員 民議 自足 権限代行全うへ人員確保主張

自民党の足立敏之参院議員は、30日の参議院国土交通委員会で、委員会開会冒頭の質疑に立ち、今年の梅雨前線による災害で、特に熊本県球磨川での水害対策や、多発・激甚化する水災害に対する国の取組み状況について質問した。写真。

足立議員は、今回の大雨で熊本県の球磨川がもたらした甚大な被害を防ぐために、「あらかじめ上流で貯水するダムが必

要ではなかったのか」と述べ、その背景に民主党への政権交代によって進んだ脱ダム政策があったと指摘。「建設予定だった川辺川ダムがもし建設さ

れていたら、被害の軽減効果があつたのではないか」と赤羽一嘉国土交通大臣に質した。

赤羽大臣は「再度災害の防止と暮らしを守る」ため「抜本的な対策をとることを県と連携して取りたい」などと述べ、地元との理解を得ながら対策づくりを進める考えを示した。

また足立議員は、災害復旧の現場では、国交省が権限代行で復旧を行っているケースが増加

しており、職員を現地に派遣し出張所を設置するケースが続いている点で、人員不足などの問題がないのか質した。

答弁に立った国交省の水嶋智大臣官房長は、「大変厳しい人員態勢の中、直轄管理区間の対応のみならず、地方の要請に基づき被災状況調査などの自治体支援を実施」しており、権限代行などの「政府の重要施策は確実に実施していくため、必要な人員体制を確保すべく最大限努力していく」などと答弁。

これに対し足立議員は、しつかりとした体制づくりは「不可欠」とし、人員確保の必要性を主張した。足立議員はこのほか、気候変動の政府の認識など多岐にわたる質問を行った。

